



海中文集

皇  
室  
藏

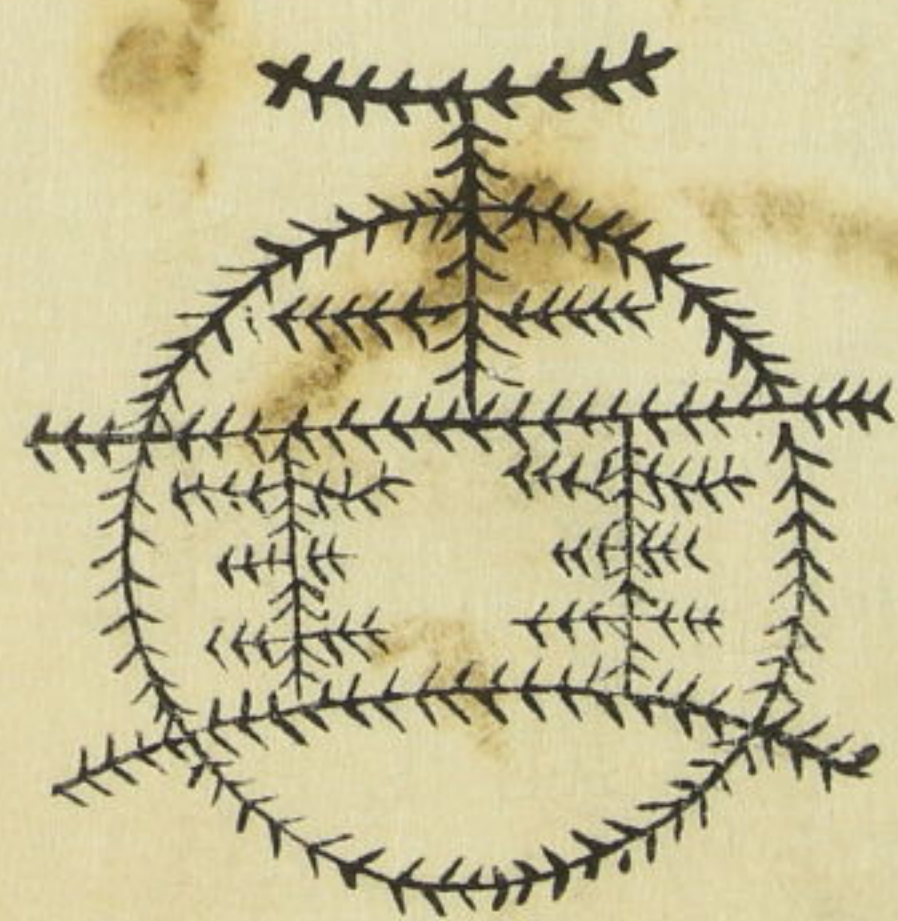
5  
1373



利  
1378  
卷



張四官



書文集

序

中



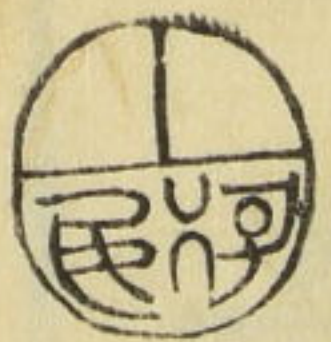
八百五の神さくらも水男麻の八のさ年を  
振るひさ神乃の名教あふむら  
はの狸尾の女と菊ア一入地人を  
こ女とら内乃のこ種といふ和の  
こ神も建ふさふさ鳥もさ一、

サノ男

信法よしのむらさき平治よりなほは  
とるれまよしむらさき平治よりなほは  
言辭國よの御指書と撰むるまよ  
まよの御指書と撰むるまよ  
らむらさき中のまよ文を撰むる集む  
一まよまよのまよ

まよ

如月日



人日

鳴亭

系行

庵之

おらとむらさきれまよまよまよ

おらとむらさきれまよまよまよ

保まよまよまよまよまよ

業の編まよまよまよ

おらとむらさきれまよまよまよ

おらとむらさきれまよまよまよ

書文

三





初午

初發入醫門の人を祝て

もつ午よと云はれぬを祝て 取之耶 芭蕉庵

初午や下向と研ふても高直 柳後園 昔仲

初しよやと云はれぬを祝て 木の飯 山只

もつ午やと云はれぬを祝て 高直 山只 右腕

もつしよと下系れぬを祝て 東中 水相

初午や都の侍と云はれぬを祝て 高直

初代

おきりやと云はれぬを祝て 武後 瓦器

おかりよと云はれぬを祝て 浪陽 花器

おかりやと云はれぬを祝て 石動 方盤

おきりやと云はれぬを祝て 越前 陶器

お代やと云はれぬを祝て 連中 逸史

おきりやと云はれぬを祝て 高直

高直

六

波音

楓さくひくくよ 津路の波岸より 獅子房 蓮二

涅槃舎とるちとく 智の彼岸 湖東 依角

暖簾よかき 彼岸の角もあ 敦賀 東怒

とまよよ 徳のよぬれひんふ 府中 昆枝

はくくろり 草よふの 彼岸 福井 草吹

捨子よもむらく 橋のひんふ 三國 橋東

佛法もむらり 園子の彼岸 五河 貞虎

ねうりよ 夢もも 彼岸 新保 夢舟

おとてえ 奥寺の 彼岸 谷古 以之

舟仲も 舟よ 彼岸 笠松 楚環

ねうらよ ころも 彼岸 吉原 昌杯

舟終と 舟よ 彼岸 道中 梅周

ねえと 舟よ 彼岸 全 杜庵

小船指さして 大工と 彼岸 高木

波音



涅槃

つゝ梅子の影で仲のまゝの種瓜 四梅庵  
梅乃く二梅門の中れ涅槃の事 寺子由  
子亦あまあをいひぬふと家福の心 三聖  
云々してふも飛びや涅槃の日 福井  
涅槃の事と云ふ事よも位や辛子 府中  
福の心と云ふ事とて福の事 大津  
福の心と云ふ事とて福の事 急入

ふつ候もと云ふ一筋の種瓜 不化  
仲揚の種よむと云ふ涅槃の事 其縣國  
月と云ふ月と云ふ事 四日市  
云人とも類梅も云ふ 谷太公  
涅槃の事と云ふ事 五  
ぬと云ふや大雄と云ふ事 老之  
涅槃と云ふ事 有琴  
云々して福の事 五  
云々して福の事 五

とこ

雛のろく鳩よりくまの卯

金城

従昔

仲人よかくや梅と雛の由

山濤

きくのもや雛の歌石帯

入正

由之

曲あよそらくはくやこの歌

梅之

こけ月の花らあもあやまの歌

栗津

香布

あま解よりけり舞とや思

七尾

若羽

一不帯通貝をゆふ下雛

竹風

向ふよあまの首あり花の葉

山市

柳さくやうきちりきて午のあ

素来

るさく解きうくと花を花

馬去

様ゆく下二りくや雛を浦

行丁

雛のれはけりまると花の色

史前

解雛やまごまごを花の

花二

幸保や新よ心合の向き音

童平

二月

くの美しき月そのあけ  
業川 木の信  
 りまやふさの尾れそり  
尾舟 巴碑  
 りまやあてからぬ大炊川  
全 麦士  
 信保姫の鏡もきよと入りぬ  
業名 板支  
 永さ日や鏡もそりぬ下  
以京 寧院  
 行書や跨りもまゝ下唐の毛  
左 杜若

ちくちくの紙やちやあて  
僕波 業毛  
 りらふ浅からぬ燕やちらうり  
長門 危朝  
 疎籠よりまのちさしや姫子の  
徳并 雲心  
 ちかちかよりまのちまれゆく  
云々 依心  
 りまのちかちかちか  
松本 里方  
 ちかちかちかちかのふれ  
此中 柳右  
 長久山の葉もまじり  
橋尾子 白根  
 りまやちかちかちかちか  
白根

夏

初ふ人よありくくとむるや

海城舎  
志才

かろりまぐ遊り日あけてむるや

難波  
野波

まことよりまるとましく不見哉

百河

織姫の杜をゆめや糸はく

乙女

大塚を好む建てる山さく

蘇子

妹はよりまよふくや一と山一橋

侍表

おあまのむねのむねのほろり

二川

まののほろりむねのほろり

九瀬

柏のりくはきりさきりむす

きや

まのむねのむねのむねのむね

嵐七

まのむねのむねのむねのむね

三仕

おあまのむねのむねのむねのむね

まき

らむむらむらむらむらむら

こま

むらむらむらむらむらむら

まき

二川

上

山崎

かゝる心もあやうきものなごころ 文州

をよみてゝもよもひもよもひ 尼

君の行や日や月や 幸池

まうし華の里や 比角

ふくし 素怨

杜鵑のこゝろ 山崎

あそび 月夜

お鳥の昔 巻耳

あ 鷺洲

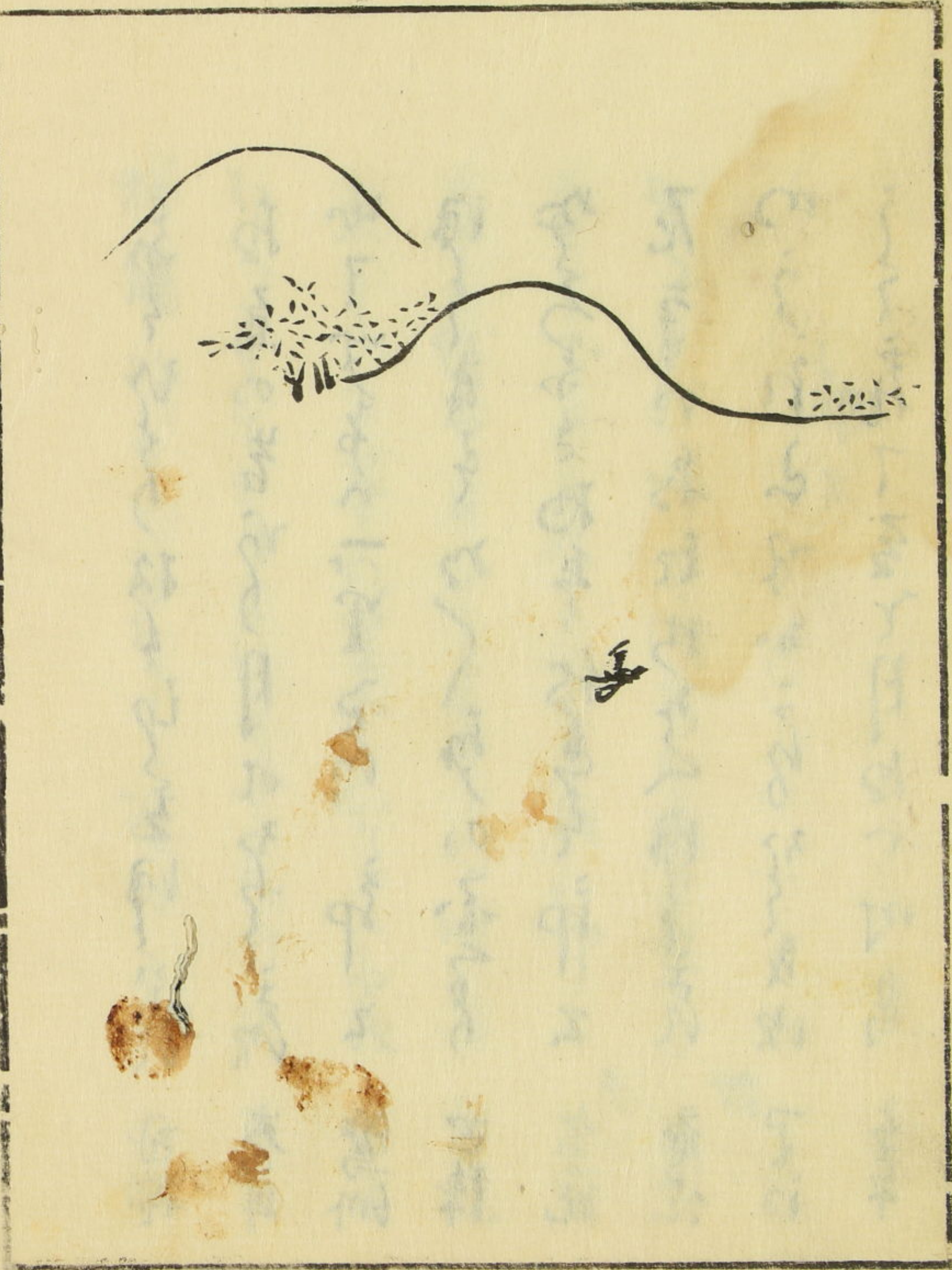
あ 巴韓

あ 名記

あ 巻耳

あ 下

あ 巻耳



天

玄更

文藤社  
雄介行

高野堂

そののちあきまのこゝろを  
牡丹とあきまのあきの記  
静之の清きまのあきの記  
記すまのあきのあきの記  
梅のあきのあきの記  
あきのあきのあきの記

教入の婦小針いさきぬりうのえ  
ふみおまよのあまい痛ききり  
掃除ふいぬりうの思あり  
曲り極よきま隠居家よ  
直る小いぬりうのいぬ  
那那小針の思たいぬえ  
あまふ部内給のふ行官平  
埃吹きくる市の掃除  
糸乃と馬小を教くりよやくえ

本控の首のかくるを言  
方ふ小い左表小娘かよ掃  
るゆいぬりの橋欄等なり  
きりぬ境も月の言法をいぬ  
きりぬの細いぬ言え  
お登の初小いぬらお掃好  
よぬの窟者扇小いぬ  
ふふるまきやて折たいぬ  
針小いぬいぬいぬ

掃除

書

灌仰

まゝの仰もまゝの御返り仰 應山人

仰のまゝとまゝの御返り仰 福井

清仏や釋つとまゝの御返り仰 金澤

清仰やまゝの御返り仰 金澤

灌佛や福もまゝの御返り仰 下関

清仏や福もまゝの御返り仰 下関

灌佛やまゝの御返り仰 山只

清仏も福もまゝの御返り仰 松夫

まゝの御返り仰 高柳如

まゝの御返り仰 尾府

清仰もまゝの御返り仰 全

清の御返り仰 全

灌仏や一圓花のまゝの御返り仰 山録

清仰やまゝの御返り仰 東羽

清仰 給時



臨午

無名庵の宿

あつたの下よき流いりて程程 鳥取人 推然

山麓の卯よき流いりて程程 吉野

手をとつて流いりて程程 福井 眉泉

あやあきまの卯よき流いりて程程 山陰

流いりて程程 越前 市村

流いりて程程 兼名 年海

松の山 松平 許白

物姫 許尾 越水

あけら 全 足己

伊勢のそとと尾草の

流いりて程程 たて場

物とら 山縣 六三

あつた 車中 芳林

あつた 芳林

入梅

伝説の中へはまのよや月と  
今澤 牧亭  
 こころ様やねるまのまほろけ  
松竹 二竹  
 めしるもや月のまほろけ  
藤原 七  
 けりるもや月のまほろけ  
北條 如水  
 めりるもや月のまほろけ  
東海 門  
 ぼころのまほろけ  
高 白推

入あやまのまほろけのまほろけ  
氷 野力  
 梅のまほろけのまほろけ  
三思 五超  
 入梅の中へはまのまほろけ  
七尾 加刺  
 こころもや月のまほろけ  
大正寺 馬泉  
 こころにまほろけ  
名 丁牧  
 こころのまほろけ  
全 竹お  
 こころのまほろけ  
古 二伍  
 こころのまほろけ  
古 草

涼

人義の金以く涼一竹の中

神風館  
涼巻

石のしる涼一竹瓶のま露より

全反  
侶翁

涼う智や押さあさる涼と神

和仁  
千代

中持く家と教くこあしく涼も

石動  
藤徒

色蕉もよび瓶よ涼かや園女中

左  
吏商

清あわらう瓶もよりの涼も

井原  
林和

小梅く月とさくふやるさく求己

三目市

とくせのまてらわくわく菴あう

信  
以耳

蚊やう蚊お家お中よ涼も

高深  
一字

無れあうよ字文よ涼も

全  
村和

あーらや里も娘まの天の河

敷賀  
紀白

ふ娘のほく葉をよする水

連中  
水胡

お襟さうもさくのゆぐて涼哉

長井

名高の神よ刺をまらうてお

巻平

中

文



百能くさくさ一石のあはれを果二  
 留の智恵と縁とあつたけ  
 行灯と多岐と花とよの婦り  
 波瀬くさくさおの白雲二  
 ほくくさくさくさくさくさ  
 彌をち終子のおまゝもれ  
 其のくさくさ一物とくさくさ二  
 持師の証名二宗華堂二

赤かぶつ内候と多岐と舌の白  
 人目とくさくさくさくさくさ二  
 恒廻とくさくさくさくさくさ  
 小書の日あやきくさくさくさ  
 孫持よ川のくさくさくさ二  
 赤くさくさくさくさくさ  
 ち候くさくさくさのくさくさ  
 くさくさくさくさくさくさ二

け下るゝあゝとふとふりそ 響を放 琴  
大工の庵へ 娘のお 清き  
あづき餅を 煮るふく 響をたて 二  
大娘の町を 邪な 響をたて 琴  
小娘は月お ぬるふと 響をたて 琴  
村はまゝ ぬるふと 響をたて 琴  
思ふふい 小娘のふと 響をたて 琴  
あゝ 響をたて ぬるふと 響をたて 琴

あゝ 響をたて ぬるふと 響をたて 琴  
二娘と 響をたて ぬるふと 響をたて 琴  
あゝ 響をたて ぬるふと 響をたて 琴  
あゝ 響をたて ぬるふと 響をたて 琴  
あゝ 響をたて ぬるふと 響をたて 琴

三十一

三十一

盆書

盆子や魂よの歌に祈の音 照不 酒香  
 福立よ嬉女の多や玉まけり 山向 茂林  
 行列のそりゆく海 葉名 鶴子園  
 假りの世とあらはれ 長流 風香  
 若もさきて 加十  
 柳路の胡ら 下実 泉旭

あそぶや二舟と橋よ新地 金津 乙羅  
 とくちのさくや月のと 福光 巴新  
 とくちのさくは 金津 侍大  
 玉まけり 金津 難大  
 柳路のそりゆく海 金津 侍大  
 假りの世とあらはれ 金津 侍大  
 若もさきて 金津 侍大  
 柳路の胡ら 金津 侍大

盆書

盆書







八朔

八朔や躍あそびは足あしは可かしし海うみ家や 変林 乙由  
 八朔のねねききききののむむもも管くだ場ばるる 七尾 司し箱ば  
 八はくくやや福ふののままかかぬぬれれ新あらたししまま 福丸 友とも云い  
 八は朔しつやや多たきき者もの狐きつねッッ人ひとててまま 巴極ごく  
 八は朔しつののままををななくくええししやや身みよよををまま 石池いけ  
 八は朔しつのの終はつしゆやや躍あそびのの伴ばんををああららわわすす 土誰たれ

八はくくででままををひひのの聲こゑををきき 中後ご 藤ふじ先さき  
 いいるるききここここ一一酒さけをを飲のみみ 名苑えん  
 八は朔しつやや田た善ぜんのの鳩とびもも肩かたはは免めん 逢支し  
 凡たゞのの神かみををおおももてて祀まつひひ 田面ののの日ひ 世孫そ  
 子こにに女めもも今いまああららうう子こやや田た面ののの日ひ 葉麻ま  
 八は朔しつややおおととううののむむねねかかららうう 波桃もも  
 八は朔しつののままををななくくええしし 正歳さい  
 帰かへりりままををてて祝いわふふ や田た面ののの日ひ 名事じ

八朔

八朔

放生會

後より石礪らるる放生會  
故人唐 玄駁  
 清ら〜たりや揚屋の放生會 侍考  
 流不さ〜たりと家父と放生會 山崎  
 海心もよ〜たりとや放生會 冠那  
 放生會 放生會 連中 軍馬  
 善きもつとけ〜たりと放生會 善き

放生

挑灯に籠上りて泥や釣じ入 廿七井 許六  
 山の端に月も地乃や釣せし入 佐角  
 里のよもよと〜たりと放生會 葉圃  
 夜のよもよと〜たりと放生會 本公  
 橋のよもよと〜たりと放生會 善き



月

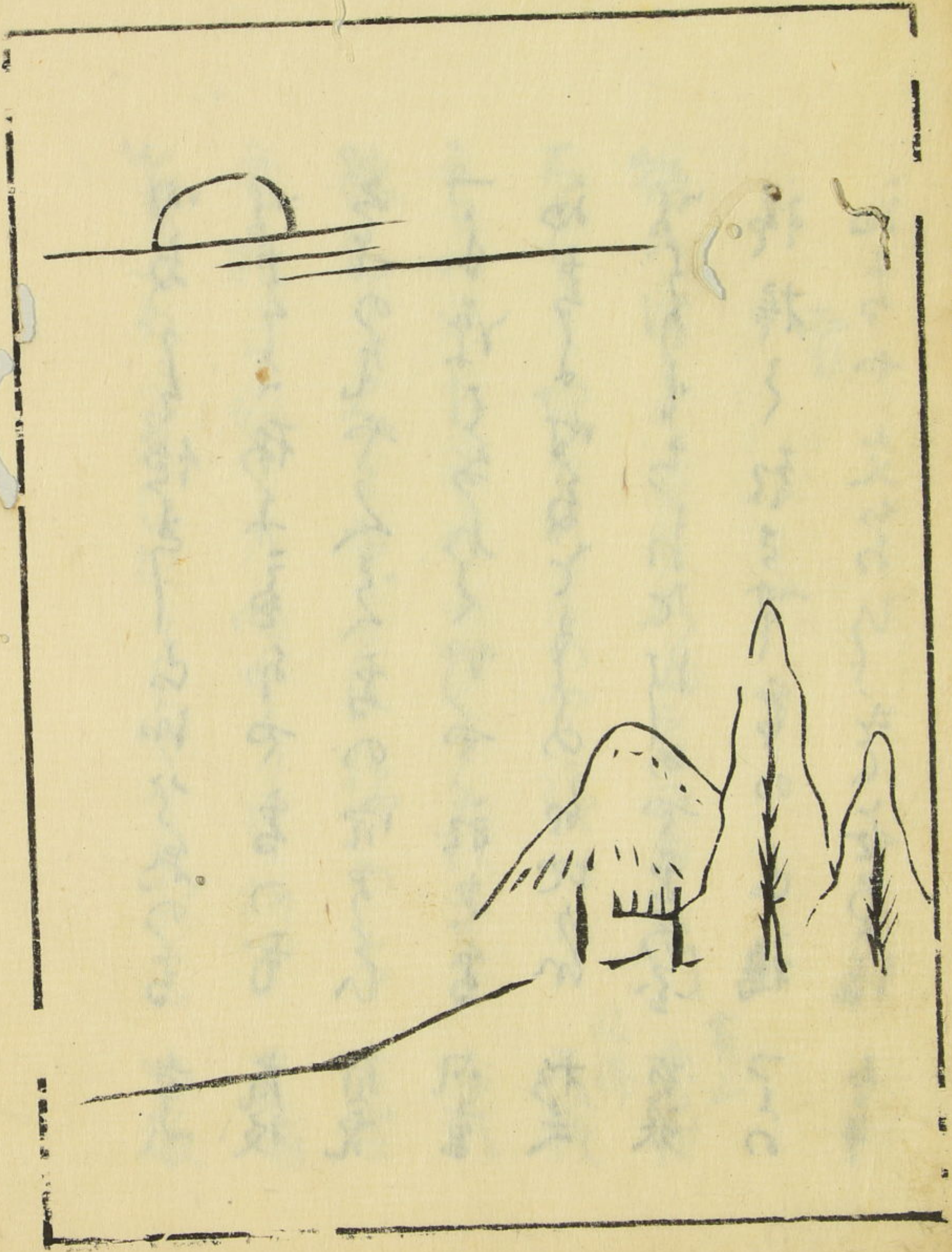
月や雪のしら雪のつぎ 其角  
川流る雷とありく月 本任 松風  
花月や糸の白のゆり 花 花  
くつ月も花移ふや雪のよみ 花 昔仲  
花月や別後花の雪も雪の中 花 花  
雪盗むま方々月の影法師 花 花

花月や雪のしら雪のつぎ 其角  
川流る雷とありく月 本任 松風  
花月や糸の白のゆり 花 花  
くつ月も花移ふや雪のよみ 花 昔仲  
花月や別後花の雪も雪の中 花 花  
雪盗むま方々月の影法師 花 花

蓮師も花のしら雪のつぎ  
花のしら雪のつぎ

月や雪のしら雪のつぎ 其角





初時雨

種長  
鐘分

井

花と柳よ庭の小ねや花雨  
 子あそびは夕暮りて白  
 鳥のこゝろのさびしき  
 庭の草花の影のほろ  
 ちか  
 ち

所の...の...を...  
...の...を...  
...の...を...  
...の...を...  
...の...を...  
...の...を...  
...の...を...  
...の...を...  
...の...を...  
...の...を...

神...の...を...  
...の...を...  
...の...を...  
...の...を...  
...の...を...  
...の...を...  
...の...を...  
...の...を...  
...の...を...  
...の...を...

...

...

神の留り

推松の留り ホコラ 禊念ふ 長むき  
 柳の留り 長むき 禊念ふ 長むき  
 河原の留り 長むき 禊念ふ 長むき  
 野鳥の留り 長むき 禊念ふ 長むき  
 山崎の留り 長むき 禊念ふ 長むき  
 松平の留り 長むき 禊念ふ 長むき  
 九郎の留り 長むき 禊念ふ 長むき

長崎の留り 長むき 禊念ふ 長むき  
 松平の留り 長むき 禊念ふ 長むき  
 野鳥の留り 長むき 禊念ふ 長むき  
 山崎の留り 長むき 禊念ふ 長むき  
 河原の留り 長むき 禊念ふ 長むき  
 柳の留り 長むき 禊念ふ 長むき  
 推松の留り 長むき 禊念ふ 長むき

長崎

長崎



十夜

酒徒<sup>酒</sup>ゑてすま<sup>酒</sup>い<sup>酒</sup>す<sup>酒</sup>あ<sup>酒</sup>の<sup>酒</sup>う<sup>酒</sup>し<sup>酒</sup>ん<sup>酒</sup>の<sup>酒</sup>北<sup>酒</sup>枝<sup>酒</sup>  
家<sup>家</sup>う<sup>家</sup>し<sup>家</sup>も<sup>家</sup>梅<sup>家</sup>の<sup>家</sup>あ<sup>家</sup>さ<sup>家</sup>や<sup>家</sup>と<sup>家</sup>す<sup>家</sup>あ<sup>家</sup>ふ<sup>家</sup>事<sup>家</sup>睡<sup>家</sup>  
夏<sup>夏</sup>層<sup>夏</sup>う<sup>夏</sup>詰<sup>夏</sup>ま<sup>夏</sup>回<sup>夏</sup>向<sup>夏</sup>ま<sup>夏</sup>む<sup>夏</sup>す<sup>夏</sup>あ<sup>夏</sup>哉<sup>夏</sup>二<sup>夏</sup>川<sup>夏</sup>  
入<sup>入</sup>る<sup>入</sup>あ<sup>入</sup>の<sup>入</sup>ち<sup>入</sup>よ<sup>入</sup>け<sup>入</sup>あ<sup>入</sup>し<sup>入</sup>す<sup>入</sup>あ<sup>入</sup>ら<sup>入</sup>ふ<sup>入</sup>杜<sup>入</sup>亮<sup>入</sup>  
又<sup>又</sup>あ<sup>又</sup>と<sup>又</sup>む<sup>又</sup>と<sup>又</sup>も<sup>又</sup>あ<sup>又</sup>り<sup>又</sup>す<sup>又</sup>あ<sup>又</sup>ら<sup>又</sup>ふ<sup>又</sup>上<sup>又</sup>原<sup>又</sup> 芳<sup>又</sup>維<sup>又</sup>  
蟠<sup>蟠</sup>媽<sup>蟠</sup>の<sup>蟠</sup>ち<sup>蟠</sup>も<sup>蟠</sup>あ<sup>蟠</sup>ら<sup>蟠</sup>り<sup>蟠</sup>て<sup>蟠</sup>す<sup>蟠</sup>あ<sup>蟠</sup>ら<sup>蟠</sup>ふ<sup>蟠</sup>巴<sup>蟠</sup>韓<sup>蟠</sup>

い<sup>い</sup>す<sup>い</sup>の<sup>い</sup>あ<sup>い</sup>き<sup>い</sup>き<sup>い</sup>ん<sup>い</sup>て<sup>い</sup>き<sup>い</sup>ん<sup>い</sup>す<sup>い</sup>あ<sup>い</sup>ら<sup>い</sup>ふ<sup>い</sup>源<sup>い</sup>三<sup>い</sup>  
き<sup>き</sup>か<sup>き</sup>し<sup>き</sup>の<sup>き</sup>あ<sup>き</sup>ら<sup>き</sup>あ<sup>き</sup>ら<sup>き</sup>夏<sup>き</sup>層<sup>き</sup>の<sup>き</sup>す<sup>き</sup>あ<sup>き</sup>哉<sup>き</sup>河<sup>き</sup>五<sup>き</sup>  
解<sup>解</sup>あ<sup>解</sup>も<sup>解</sup>す<sup>解</sup>つ<sup>解</sup>て<sup>解</sup>い<sup>解</sup>ら<sup>解</sup>ぬ<sup>解</sup>す<sup>解</sup>あ<sup>解</sup>ら<sup>解</sup>ふ<sup>解</sup>松<sup>解</sup>下<sup>解</sup>  
下<sup>下</sup>え<sup>下</sup>ら<sup>下</sup>も<sup>下</sup>ね<sup>下</sup>ら<sup>下</sup>ふ<sup>下</sup>よ<sup>下</sup>き<sup>下</sup>き<sup>下</sup>餅<sup>下</sup>の<sup>下</sup>す<sup>下</sup>あ<sup>下</sup>ら<sup>下</sup>ふ<sup>下</sup>揚<sup>下</sup>岐<sup>下</sup>  
証<sup>証</sup>き<sup>証</sup>け<sup>証</sup>の<sup>証</sup>細<sup>証</sup>代<sup>証</sup>ち<sup>証</sup>あ<sup>証</sup>ら<sup>証</sup>も<sup>証</sup>す<sup>証</sup>あ<sup>証</sup>ら<sup>証</sup>ふ<sup>証</sup>六<sup>証</sup>三<sup>証</sup>  
様<sup>様</sup>ら<sup>様</sup>も<sup>様</sup>あ<sup>様</sup>ら<sup>様</sup>ふ<sup>様</sup>餅<sup>様</sup>の<sup>様</sup>す<sup>様</sup>あ<sup>様</sup>ら<sup>様</sup>ふ<sup>様</sup>里<sup>様</sup>の<sup>様</sup>  
ね<sup>ね</sup>も<sup>ね</sup>あ<sup>ね</sup>ら<sup>ね</sup>も<sup>ね</sup>あ<sup>ね</sup>ら<sup>ね</sup>ふ<sup>ね</sup>す<sup>ね</sup>あ<sup>ね</sup>ら<sup>ね</sup>ふ<sup>ね</sup>琴<sup>ね</sup>丸<sup>ね</sup>  
月<sup>月</sup>と<sup>月</sup>あ<sup>月</sup>ら<sup>月</sup>は<sup>月</sup>あ<sup>月</sup>ら<sup>月</sup>ふ<sup>月</sup>の<sup>月</sup>す<sup>月</sup>あ<sup>月</sup>ら<sup>月</sup>ふ<sup>月</sup>き<sup>月</sup>東<sup>月</sup>

綿衣

洋二

夷清

龍亭

夏江清濁のわらわの平記の七  
精とれ布衣を漸く志しとて 巴菴  
八玉の廻りやなり志とて清 河文  
難けとゆるけ清あり志は清 右藏  
為らしむけもかこんや夷清 史新  
菊ふとけりかこんや志とて清 音吉

お伊事

岐山

江右坊

お伊事やまも伊力の酒をけ  
お伊事やまも伊力の酒をけ 江右坊  
お伊事やまも伊力の酒をけ 江右坊  
お伊事やまも伊力の酒をけ 江右坊  
お伊事やまも伊力の酒をけ 江右坊  
お伊事やまも伊力の酒をけ 江右坊  
お伊事やまも伊力の酒をけ 江右坊  
お伊事やまも伊力の酒をけ 江右坊  
お伊事やまも伊力の酒をけ 江右坊  
お伊事やまも伊力の酒をけ 江右坊

煤拂

旅行

此君店

とうとうや又はふふふふふふふふ  
 煤拂やまのふふふふのふふ  
 煤拂やまのふふのふふ  
 丁牧 山猪  
 丁 栗  
 煤拂やまのふふのふふ  
 煤拂 大猪  
 煤拂のふふとふふふふふふのふ 全  
 木竹

とうとうやまのふふふふふふふふ  
 煤拂やまのふふのふふ 全  
 煤拂 連中  
 煤拂のふふとふふふふふふのふ 全  
 煤拂 馬  
 入まのふふのふふふふふふのふ 全  
 煤拂 和  
 入まのふふのふふふふふふのふ 全  
 煤拂 牧  
 入まのふふのふふふふふふのふ 全  
 煤拂 被  
 入まのふふのふふふふふふのふ 全  
 煤拂 幸

餅搗

正月のこゝろや餅の青羽山 柳埴園 石の

まらうー東海乃まらうの音 以之

餅搗や牡丹の柳子のまらう 東羽

しーの柳うー餅の音 柳机

もらうまらうまらうー音の坊 まらう

餅搗の口やまらうの口 大徳 字推

餅搗の口まらうの音 小方 比柳

餅のまらうまらうまらうの音 餅の音 柳を

餅搗のまらうまらうまらうの音 餅の音 水胡

餅搗のまらうまらうまらうの音 餅の音 更刺

餅搗のまらうまらうまらうの音 餅の音 具井

餅搗のまらうまらうまらうの音 餅の音 早島

餅搗のまらうまらうまらうの音 餅の音 柳園

餅搗のまらうまらうまらうの音 餅の音 亭平



何屋治普衛板  
法正寺  
何屋治普衛板  
法正寺  
何屋治普衛板  
法正寺  
何屋治普衛板  
法正寺  
何屋治普衛板  
法正寺

京寺町二条下八所  
橘屋治普衛板

